



ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN

URL <http://www.meinan-rotary.com>

E-mail info@meinan-rotary.com

WEEKLY REPORT



2008-2009 RI会長
リー・ドンカン氏(韓国)

■承認/1991年3月8日

■例会日/火曜日・PM6:30

■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル

■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号

名古屋マリオットアソシアホテル2202号

TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

■会長/川辺 清次

■幹事/鈴木 清詞

■会報委員長/田中 省三

第 853 回

2009年3月10日(火) 晴 第32回

～識字率向上月間～ ～世界ローターアクト週間～

斉唱 それでこそロータリー 結婚記念日の歌
出席 会員 70名 (出席率算入人数 66名)
 出席 51名 出席率 77.27%
 前々回補填率 98.57% (2月19日分)
ゲスト 名古屋商科大学野球部監督 中村 順司様
 名古屋熱田ローターアクトクラブ
 会長 大島 昌之さん
 次年度会長 辻 雄基さん

3月の結婚記念日

2日 川村 繁生さん	6日 林 正人さん
11日 坂田 信子さん	12日 山本 誠一さん
13日 細井 俊男さん	19日 小山 慎介さん
20日 三浦 隆さん	20日 小野 雅之さん
26日 白銀 義昭さん	28日 杉山 隆秀さん

◆会長あいさつ◆

会長 川辺 清次さん

今日は最高気温が16℃まで上がり暖かい1日でした。本格的な春は間近です。何年か前に、わがクラブのハイキング同好会で行った藤原岳で福寿草を見たのも今ごろだったと思います。山頂の小屋で水野さんたちが用意してくれたお茶を飲んで、福寿草の写真を撮って帰ってきました。以前はハイキング同好会も色々な山へ行っていました。国見峠へ行ったときには、一緒に行った江村さんの両足がけいれんしてしまい、抱えられて下山しました。当時に比べて我々は年をとりましたが、水野さんを中心にまた軽めのハイキング、猿投山程度のところへ行きたいと思います。



先週理事会が行われました。山本誠一さんに勧められ「意義ある業績賞」に応募しました。一連の社会福祉法人児童擁護施設の名古屋養育院と中央有鄰学院に対する長年の援助・交流を理由に応募しました。結果としては選ばれませんでした。他の賞に応募されてはどうですかというコメントをいただきました。3月末までの実績で、RI会長賞にも応募しようと思っております。

会長就任時の目標である会員増強ですが、目標10人に対して6人です。純増に至っては1名です。まだ3か月強ありますので、なにとぞご紹介をお願いします。

◆幹事報告◆

幹事 鈴木 清詞さん

- 6月20日から25日、または27日の日程にて、イギリス・バーミンガムで開催される第100回国際ロータリー年次大会の参加ツアーのご案内をします。パンフレットが来ておりますので参加希望の方は事務局へお問い合わせ下さい。
- 会員の安藤修さんのお父様が亡くなりました。お通夜が3月11日の19時から、告別式が3月12日の10時から11時で、六番町愛昇殿で行われます。

◆ニコボックス◆

*名古屋商科大学野球部監督中村順司様の卓話を楽しみにしております。よろしくお願ひします。

生野 房江さん

*名古屋商科大学野球部監督中村順司様の卓話を楽しみにしています。

浅井 浩さん	犬飼りさ枝さん	猪村 美之さん
入谷 直行さん	江上 隆夫さん	江村 雅夫さん
大隅 紀郎さん	大橋さなえさん	小野 雅之さん
川辺 清次さん	木村 猛さん	黒田 康正さん
小澤 久隼さん	榊原 和美さん	佐々木元彦さん
白銀 義昭さん	柴田 照子さん	白藤 憲雄さん
新原 尚さん	鈴木 一博さん	鈴木 厚司さん
鈴木 清詞さん	田中 一雄さん	田中 省三さん
中村 勝さん	野々村憲吾さん	林 正人さん
林 隆二さん	細井 俊男さん	牧野 好弘さん
三浦 隆さん	山崎 淳さん	山本 誠一さん
吉木 邦男さん		

本日合計 38,000円 累計 1,296,000円

◆委員会報告◆

●社会奉仕委員会 委員長 川村 繁生さん

名南RCは毎年、名古屋養育院さんと中央有鄰学院さんの卒業生に腕時計を贈っております。今回も先日、両院に腕時計を贈らせていただきましたところ、各院長さんから礼状が届き、子どもたちからもお手紙をいただきました。



第855回例会(3月25日)のご案内

2RC 合同例会

於：名古屋マリオットアソシアホテル 16F「アイリス」

受付 17:30～ 例会・懇親会 18:00～20:00

◆委嘱状授与◆



第2760地区ガバナーエレクト大澤輝秀さんから、名古屋熱田ローターアクトクラブの辻雄基さんに委嘱状が授与されました。

●名古屋熱田ローターアクトクラブ 会長 大島 昌之さん

4月12日、名古屋熱田ローターアクトクラブと名城、港の3クラブの合同企画としまして、チャリティクラシックコンサートを開催します。場所は中電ホールです。収益の一部をポリオの撲滅活動へ寄付したいということで企画をしました。入り口でチケットの販売をいたしますのでお力をいただけたらありがたいと思っております。お値段は1枚1,000円です。今回は昨年同様、曲目などを指揮者の方が紹介して、より分かりやすくクラシックを楽しんでいただこうという企画でやっております。ご協力をお願いいたします。



◆外部卓話◆

●名古屋商科大学野球部監督

中村 順司氏

昨年、桑田、清原という二人の選手が引退しまして、今、非常に寂しい思いをしています。高校時代、彼らには素晴らしい思い出をたくさん作ってもらいました。

桑田と清原が1年生の時、夏の甲子園1回戦は所沢商業に勝ち、準決勝では蔦先生が監督をされている池田高校と対戦して3-0でPL学園が勝ちました。私が監督として初めて優勝させていただいたのが、桑田、清原が1年生の時だったわけです。

彼らが3年生の春、桑田、清原も最後の年だし、怖いものなしという状況で甲子園に乗り込みましたが、準決勝で伊野商業に1-3で負けてしまいました。PLの寮へ戻って、選手たちに「3年生の春は終わった。あとは夏だけしかないから、3年生は悔いのないように、夏に向かって頑張ろう」というような話をしました。しばらくして私が寮から出ると、寮の隣にある雨天練習場に明かりがついていて、打っている金属音がしているので行ってみると、上半身汗びっしょりの清原がいました。ピッチングマシンを最速にして、一生懸命スイングしていたのです。

選抜大会が終わったあと、春の大会、近畿大会があり、7試合ほど戦うのですが、桑田には「春の大会は投げなくていい。これから走り込んで、夏の大阪大会の7試合と、甲子園の6試合、一人で投げられるだけの練習をしておけ」と言いました。彼は、自分を管理するという面では徹底していますから、実際にはそこまで投げさせることはないのですが、それぐらいやっておけと言いました。

その当時の1年生が、立浪であり、片岡、橋本です。彼らは一緒に寮生活していたのですが、あるとき1年生



の深瀬がこんな話をしてくれました。「僕は炊事当番をしてました。桑田さんが食べられていないので、食堂で待ってました。桑田さんが帰ってこられたら、体がびっしょりぬれていました。僕は雨が降ったのかなと外へ出てみたら、雨は降ってなくて、桑田さんの汗でした。」桑田が言うには、マウンドでは誰も助けてくれないから自分がなんとかやらなきゃいけない。だから練習が終わったあと、PLの敷地の中にあるゴルフ場の芝生の上を一生懸命走ったと言うのです。

そして夏の大会を迎え、甲子園の決勝は宇部商業でした。最終回、2アウト、ランナーセカンドから、キャプテンの松山がセンター前へ打って、高校最後の大会を優勝で飾りました。

桑田と清原が3年生当時に1年生だった立浪ですが、彼はとても気遣いのできる選手でした。試合に来られたある高校の監督さんがお風呂に入らせてほしいと言うので、立浪に風呂を見てくるように指示しました。その監督さんが入られて戻って来られたときに「PLの強さが分かった」と言うのです。どういうことか聞いたら、風呂に入った時、椅子の上にシャンプーとナイロンタオルと、せっけんが置いてあったというわけです。これは立浪が用意したんだと思います。

立浪が中日ドラゴンズへ入団した年に、私は招待野球で熱田球場で試合をしました。立浪が陣中見舞いに来てくれてスポーツドリンクを持ってきました。その日、試合が終わって生徒を帰らせたあと、名古屋球場の試合を見にいきました。最終打席、彼はタイムをかけてネクストバッターズサークルへ行きました。するとそこには落合選手がいて立浪にスプレーをとってあげたのです。立浪も「ありがとうございます」と頭を下げ、スプレーを塗って置こうとしたら、落合選手が受け取ってくれました。3冠王をとった最高の落合選手じゃないですか。あの落合選手が、立浪にとってくれた事をすごく感激しました。それと同時に、誰にでも1年目の選手に落合選手がやってくれるかという、そうじゃないと思うのです。やっぱりキャンプの時や一緒に移動する時に、落合選手が「お、ありがとう」と立浪にいうような場面があったと思うのです。

その年に中日ドラゴンズは優勝しました。日本シリーズで、中日ドラゴンズが東京へ行く新幹線に乗っているところがニュースで流れました。選手たちが乗り込んでいく後姿が写っていて、立浪がこっちを向いています。グリーン車が来てドアが開いたときに、彼は道を譲って先輩たちが乗り込んでいくところだったようです。

1年目からレギュラーになって、今日まで2,000本安打を打って、ミスタードラゴンズなんて言われるような選手になったのも、やはり、先輩、指導者の方、今の立場になってきたら若い選手から慕われるような、そんな立浪の高校時代に見たようなことが、プロに入ってもそのまま頑張ってくれているからなのだと思います。

私も野球を通していろんな選手と出会いました。監督は選手あつての監督ですから、選手がいなかったらただの中村です。そういう意味で、選手たちに感謝しています。野球の中に、人間社会の縮図のようなものがあると思うのです。三振した子が最終回にサヨナラヒットを打ってみたい、ホームランを打った子が大事なところで三振したり、いろいろ努力したことが結果として実らなかったり、一生懸命努力してきても大事なメンバーを選ぶときにけがしたり、そういったものが高校3年間、今は大学で指導しているので4年間、野球を通して、将来世のため人のために役立つような選手が、人として育つように、育成するようにしていきたいと思えます。